



---

---

## ■実業家・菊池寛の顔「名プロデューサーと云われる作家」

---

---

友人・芥川龍之介、直木三十五の死を悼し、「芥川賞・直木賞」を創設し、また日本文藝家協会を設立する。映画会社である「大映」の初代社長を務め、これらの成功で得た資産をもとに、川端康成、横光利一、小林秀雄などの若手参加に金銭的援助をしていった。

菊池寛は様々な趣味があり、特に麻雀と競馬に熱中していた。日本麻雀連盟の初代総裁を務めたり、馬主として競走馬を所有したりしていた。

---

---

## ■文壇の大御所 菊池寛の最期「戦争と文学」

---

---

太平洋戦争中、文芸銃後運動を立案し、翼賛運動の一翼を担ったとされ、戦後には公職追放の指令を受ける。将棋などをし、閑暇を過ごす。1948年3月6日、菊池寛の快気祝いの最中に狭心症のため急逝。59歳。

---

---

## ■ 向田邦子と菊池寛

---

---

向田邦子が四番丁小学校に在籍していたとき、同校OBの菊池寛が講演会に訪れた。その講演の中で「人のことを言うとき、悪いことを先に言って、あとで良い事を言いなさい」という言葉が印象に残っている、と記述が残されている。

またそのとき、校長先生から運動場の整備に金が必要と話をすると、ポケットマネーを出し、整備を進めさせたというエピソードが残っている。

---

---

## ■ 故郷・高松と菊池寛

---

---

東京に長くいた菊池寛は、なかなか高松に戻ることが出来なかったが、歯が悪かったため、うどんを食べることが多く、さぬきうどんを懐かしんでいたという。また地元の人間が金を貸して欲しいと言ってきたとき、片原町にある北を向いた天神さんの名前(華下天満宮)をクイズに出し、本当に故郷の者が問い、当たれば金を貸してやっていたとのこと。太っ腹ですね！

作家と実業家の顔を持つ菊池寛。また生活者を意識した様々な作品を世に送り出した敏腕プロデューサーという側面もあります。多彩な才能を自ら持ちながら、若手作家を育て、作家の社会的地位の向上にも努められました。菊池寛があと10年生きていたら間違いなくプロ野球チームのオーナーになっていただろう・・・と、大西先生は言うておりました。菊池寛通りがあるから菊池寛を知っているような気になりますが、せめて「芥川賞・直木賞の創設者」「文藝春秋の創刊者」というくらいは覚えておいて頂きたいですね。高松の偉大な先輩、菊池寛！学ぶところはいっぱいあります。まずは菊池寛記念館へ・・・！

---

---

## ■ 菊池寛に関するおすすめスポット

---

---

菊池寛記念館 <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/646.html>  
高松市昭和町一丁目2-20 サンクリスタル高松3F  
開館時間：AM9:00～PM5:00  
休館日：毎週月曜日

菊池寛通り ことでん瓦町駅から県庁までの約700mの道路。実は、この通り沿いに菊池寛の生家があった。現在、中央公園の東側に菊池寛の銅像が建っている。また戯曲「父帰る」の銅像も香川銀行の南側に設置されている。

